

清川祥恵

・研究内容

ヴィクトリア時代の英文学・中世主義思想、近現代における「神話」および「神話学」の研究。

・紹介する本

1. ミカ・ワルタリ『エジプト人』（上・中・下）飯島淳秀訳、角川文庫、1960年

古代エジプトの古い写本に登場する人物をもとにして創作された、流浪する医師の物語。原著 1945 年刊。作家の古代エジプトへの興味は、少年時代にツタンカーメン王墓発見（1922 年）のニュースに触れたことに端を発するものの、本作はインディ・ジョーンズ風ではない、ひとりの古代エジプト人の生涯をたどる物語として楽しめる。残念ながら日本語版は、この全訳も小学館地球人ライブラリーの抄訳版『ミイラ医師シヌヘ』も英語版からの重訳版であるが、実は高く評価される「フィンランド文学」でもある。「過去」からのインスピレーションが時代や地域をこえた創意につながっている点も興味ぶかい作品である。